

# 第3期 5回目授業

今回は、授業の前に四国大学教授の加渡先生のゼミの学生さんとの意見交換会がありました。学生さんから見た上板町を元気にするプランの発表があり、熱中小学校生徒さんと町の課題や学生さんにこれから期待することなどの意見交換会を行いました。



～上板町の観光プランを発表してくれる生徒さん～

## ～1時限 四国大学教授 加渡先生～ 貿易ゲーム (学生さん達とのグループワーク)

今回の授業は、四国大学学生さんと熱中小学校生徒さん達とのグループワーク形式です。



10個のチームをつくり、それぞれのチームが国となり、お金を稼ぎ合うという貿易ゲームに挑戦。10個の国は、先進国、新興国、発展途上国となり、用意された道具や原資はバラバラです。与えられた道具や原資を使い、他の国と交渉をしながらお金を増やしていくというゲーム。



最初は、皆さん緊張していましたが、徐々に打ち解け、一緒に

考え、話し合い、交渉や他の国の偵察など走り回って動いていました。結果は、やはり先進国が一番稼いだのですが、交渉力や作戦がしっかりしていた発展途上国も上位に食い込むなど、今の世界情勢に通じるものがあると、とても勉強になる授業でした。

## ～2時限 元厚生労働省鹿児島労働局長 覺正先生～

### 3つの幻想 だからミスってするんだ!

「人間は誤りを起こす動物である」

◇内在的危険は錯覚や先入観から起こる。小さなミスが重なって大きなミスにつながる

→「知覚動考」前例にとらわれたらダメ。

眼からの情報量は全体の85%と高い。眼から情報をインプットして、大脳に入りアウトプットする。

1秒間に300万bitの情報量が眼に入ってくるが、大脳で処理できるのは5~7bitのみ。→ミスが起こる。

ミスを防ぐには、逆読み、指差し確認(残りの15%はあごの筋肉のため)が有効的。

耳からの情報量は30万bitしかない。眼からの情報は300万bit→まさに「百聞は一見にしかず」

◇挨拶(アイコンタクトをするとき)

人間の顔は、右半分:知的、理性的、冷たい顔、左半分:優しい、柔らか、温かい顔な印象。

左眼は右脳に繋がっているので、(右脳は感じの良さや穏やかさを司っており)アイコンタクトは左眼でした方が印象がいい。相手の心臓と自分の心臓を合やす意味もある。

◇世代の違い(団塊世代、ポパイ・JJ時代、新人類世代、バブル世代、団塊ジュニア世代、さとり世代)各世代は、下の世代の事が許せない。人は皆違うので、主観的に判断してはいけない。言葉が行動をおこさせる→男性、女性に対して同じ扱いではダメ。(男脳と女脳)性別にあった扱いが必要。人材育成についても、誉めることから始める。

